

「芋煮でケンカしてんじゃねーよ」

—初稿—

2025/9/7

〈人物表〉

菅原 春奈 すがわらはるな

(37)

陽介の妻、宮城出身

菅原 陽介 すがわらようすけ

(39)

春奈の夫、山形出身

菅原 日向 すがわらひなた

(12)

春奈の息子

菅原 淳 すがわらあつし

(66)

陽介の父

菅原 浩介 すがわらこうすけ

(41)

陽介の兄

陽介の親族ら

居酒屋の店主

1. 東京・春奈の自宅マンション・リビング（夜）

ソファで菅原陽介（39）が電話中。笑顔。

陽介 「うん。父さんも元気そうでよかった」

食卓では菅原春奈（37）と息子の日向（12）が食事中。春奈、陽介の様子が気になる。

陽介 「いやー、ほんと懐かしいよなあ。久しぶりだわ」

陽介の席には手付かずの食事。湯気の立った味噌汁。

陽介 「もちろん春奈も日向も連れてくよ。うん、じゃあね」

と、電話を切って席に戻る。

陽介 「今度さ、山形で芋煮会（いもにかい）やるって」

春奈 「え？」

陽介 「実家の近くの河川敷に親戚みんな呼ぶってさ。あれ宮城でもやるよね？」

春奈 「うん、でも何年ぶりだか……」

陽介、ニコツと笑う。

春奈、身構える。

陽介 「春奈、芋煮作ってよ」

春奈 「え？」

陽介 「楽しみにしとくね」

と、呑気に味噌汁を啜る。

春奈 「……まあ、いいけど」

2. 東北新幹線（朝）

新幹線、走る。

3. 東北新幹線・車内（朝）

三列シートに掛ける春奈たち。

日向、新幹線のオモチャで遊ぶ。

陽介、爆睡。

春奈、メモ片手に誰かと電話中。小声で、

春奈 「うん。ウチで作ってるのでいいから」

4. 宮城・春奈の実家（朝）

春奈の母・木田明里（64）、受話器片手に、

明里 「芋煮の作り方？」

春奈の声「お願い」

明里 「なに、急に電話してきたと思ったら」

春奈の声「急に作るようになったの！」

明里 「そんな大したもんじゃないけど……」

5. 山形駅構内（昼）

「山形駅」の掲示。

陽介、電話に向かって、

陽介 「うん、今駅着いたところ。え？」

6. 河川敷・芋煮会会場（昼）

淳の声「陽介、まだ来ねえの？ 二時に来るってったろ」

土手のススキに、赤トンボ。

団体客で溢れる河川敷。

その一角、陽介の親族が陣取り、宴会中。約20人。

父・菅原淳（66）、出来上がっていて、

淳 「酒無くなりそうなんだよ。ビールでもなんでもいいから」

と、酒瓶を逆さにしてみる。

7. 山形駅構内（昼）

陽介 「（春奈に）ごめん、俺酒だけ先に買ってくわ。あとで日

向と一緒に来てくれる？」

春奈 「ええっ？」

陽介 「親父、新幹線の時間に向こう着くと思ってたみたいで」

春奈 「……いいけど」

と、不満げ。

陽介 「ごめん！」

と、ダッシュで駆け出す。

春奈、その背中を目で追う。

8. スーパーマーケット（昼）

春奈、先ほどのメモを見つつ食材をカートに入れる。
メモには「味噌」「豚バラ」「里芋」など。

スーパーの一角。「秋はみんなで芋煮会」のポップ。
芋煮の写真。醤油ベースに牛肉の山形芋煮。

9. 土手（昼）

春奈、日向を連れ、重そうな買い物袋を両手に持って歩いている。
土手の下、大騒ぎする親族らと陽介。ため息。

10. 河川敷・芋煮会会場（昼）

淳 「陽介お前、東京住んでっからって、調子乗んじゃねえぞ」
と、陽介をバンバン叩く。
陽介 「分かった分かったって。親父、いつもこれなんだよ」
親族ら、大盛り上がり。
淳 「ごめん春奈ちゃん、ビール持ってきてえー！」
と、大声で叫ぶ。

11. 河川敷・調理場（昼）

少し離れたところの簡易的な炊事場。
春奈 「あ、はーい！ ちょっと待ってくださいね……」
大きな両手鍋が火に掛けられている。
たっぷり味噌を入れ、味見。よし、という顔。

12. 河川敷・川辺（昼）

日向、川に向かって水切りしている。
親族らの声「春奈ちゃん俺もビール！」
日向、声の方を眺める。
春奈 「は、はーい！」

13. 河川敷・芋煮会会場（昼）

春奈、両手鍋をそーっと持ってくる。
陽介ら親族、鍋の登場で大盛り上がり。
淳 「おっ、来ました来ました、芋煮！」
陽介 「うわ懐かしい」
春奈、鍋をテーブルに置き、蓋を開ける。

一同、覗き込む。おぉーっと、歓声。
が、何か気づいて、静まる。

中は味噌ベースの豚肉に里芋、野菜が入った汁。

淳 「春奈ちゃん、これ……」

春奈 「あ、お父さんビールね。今持ってくる」

親族ら、「味噌だ」など困惑の声がポツポツ。

陽介 「春奈、なんで味噌汁作ってんの？」

春奈 「……は？」

淳 「春奈ちゃん、味噌に豚って、豚汁じゃねえんだから」

と、笑い飛ばす。

春奈、なにも分かっていない。

陽介 「え？」

春奈 「え？」

皆、困惑。

陽介の兄・菅原浩介（41）、なんとなく察して、

浩介 「あー！ ほら、春奈ちゃん宮城の人だから」

陽介 「え？」

浩介 「宮城の芋煮って、味噌に豚なんだよ。だよね？」

春奈 「（さも当然という顔で）はい」

親族ら、「あー」と合点の行った声。

陽介 「山形の芋煮は、醤油に牛肉なの」

と、呆れる。

春奈 「え？ そうなの？」

浩介 「味噌汁じゃあ、つまみには弱いよな」

と、笑う。

陽介 「（親族らに）ごめんね、コイツ仙台様だから。山形のこ
となんて何も知らないのよ」

親族ら、大爆笑。

春奈 「……は？」

春奈、鍋の蓋を放り捨てる。

日向の手を取って、

春奈 「行くよ」

春奈、日向を連れ、立ち去る。

陽介 「え、春奈？」

14. 土手（昼）

春奈、日向を連れ、ズカズカと進む。
その顔、怒り心頭。

15. 河川敷・芋煮会会場（昼）

陽介、うなだれている。

淳

「たかだか芋煮で喧嘩してんじゃねーよ」

と、お酌を要求。

陽介、淳にお酌する。

ふと、残された芋煮鍋を見る。湯気が立っている。

16. 土手（夕方）

西陽が差し込んでいる。

春奈、怒り心頭のまま、ズカズカ進む。

日向、立ち止まって、

日向

「お母さん、疲れたあ」

春奈、立ち止まって、ふと我に戻る。

春奈

「あ、ごめんね」

振り返ると、河川敷は遠くにある。

と、春奈、腹が鳴る。

春奈

「そーいや、何も食べてないわ」

と、何か匂いがする。

春奈

「いい匂い……」

春奈、土手の一角に何かを見つける。

17. 屋台居酒屋・外観（夕方）

いかにもという移動式の屋台居酒屋。

春奈の声「ぷっはあー」

18. 屋台居酒屋・内（夕方）

春奈、手にはビール。へべれけ。

春奈

「あー、もー、むかつくー」

居酒屋の店主、笑って、

店主 「お客さん、いい飲みっぷりだねえ」

日向、傍で枝豆をぷちぷちと剥いている。

春奈 「ちよっと、何これ！」

と、壁に貼られた「山形名物 芋煮」の札を指す。

春奈 「今、見たくないからこの文字！ これ剥がしていい？」

店主 「ちよっとちよっと。せっかく今煮込んでんだから」

春奈 「え？」

店主、手元の鍋を見せる。

中には、醤油に牛肉の山形芋煮。

春奈 「……この匂いだったんだ」

店主 「食べる？」

× × ×

店主 「はい、どうぞ」

と、取り分けた芋煮を春奈、日向に出す。

春奈、物珍しそうに見ている。

店主 「あれ、食べたことないの？」

春奈 「うん、私、『仙台様』だから」

店主 「はは、そうかいそうかい」

春奈、恐る恐る一口食べる。

春奈 「……うつまあ」

春奈、どんどん食べる。

春奈 「なんか、すき焼きみたい。でも、里芋があるから牛の脂がくどくない。同じ芋煮なのに、こんな違う？」

店主 「だろ？」

続いて牛肉を口に入れ、ビールで流し込む。

春奈 「……合う。合う！」

店主 「カレーとうどんもあるよ」

春奈 「え？」

と、レトルトカレーとうどんを見せる。

店主 「シメはカレーうどんにすんのが山形流よ」

春奈 「……！」

春奈、残り少なくなった丼を、反射的に差し出す。
店主、トロツとカレーをかけ、うどんを入れる。

店主 「どうぞ」

春奈、ズズッと啜る。

春奈 「うっまあ」

と、手が止まらず、全て食べ尽くす。

春奈 「ご馳走様でした」

と、日向も手を合わせる。

店主 「山形も意外といいでしょ？」

春奈 「はい！」

春奈、我に帰って、

春奈 「いや、それとこれとは、別だから！」

店主 「？」

19. 土手（夕方）

店主 「また来てねー」

春奈、店主に手を振り、居酒屋を後にする。

日向、どこかへ駆け出す。

春奈 「ちょっと！」

そこには、陽介。

陽介、日向の手を取る。春奈を見てホッとして、

陽介 「……春奈、どこ行ってたの？」

春奈 「どこでもいいでしょ」

春奈、そっぽを向く。

陽介 「春奈、ごめん」

と、頭を下げる。

陽介 「本当に、ごめん。俺も芋煮の違い、知らなくてさ……」

春奈 「そこじゃないから。芋煮で喧嘩したわけじゃないから」

陽介 「あ、でも。あの後みんな春奈の芋煮食べたんだよ」

春奈 「え？」

20. （回想）河川敷・芋煮会会場（昼）

陽介、芋煮を取り分けている。

淳ら親族たち、宮城の芋煮に興味津々。

皆、笑顔で食べている。

淳 「たまにはこっちもいいなあ。な？」

陽介も、一口食べてみる。

陽介 「……うまい」

浩介、一口食べて、

浩介 「俺は山形だな。パンチがねえもん」

淳 「ん、ならこれでどうだ」

淳、浩介の芋煮にカレーをぶっ掛ける。

浩介、半信半疑で一口食ってみる。

浩介、目を見張る。

21.

土手（夕方）

陽介 「みんな、すげえうまいうまいって食ってた」

春奈 「いや最後のは？」

陽介 「本当ごめん、全部押し付けちゃって。せっかく作ってくれたのに、皆んなの前でバカにしたみたいなこと言って」

春奈 「……はあ」

陽介 「とにかく、ごめん。だから、戻ってきて」

と、頭を下げる。

春奈、店主が笑顔で見ているのに気づく。

一つ、息を吐いて、

春奈 「まあ、いいけど」

（終わり）